

学生健康調査から見る学生のメンタルヘルス —コロナ禍での学生サポートの一助として—

澤田 忠幸*¹ 新村 知子*¹ 高橋 千秋*² 坂上 千種*³

要 旨

本研究では、2016年～2020年度の春に石川県立大学の学部学生を対象として実施した「心と体の健康調査」の結果を分析した。最初に1年生を対象として、入学年度による違いの有無を検討したところ、身体的健康や精神的健康の不調、自己や性格についての悩み、生活・家族・将来についての悩みでは、一定の変動はあるものの、入学年度による違いは見られなかった。一方、対人関係に対する悩みでは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けた2020年度入学生では、他の入学年度生に比べて、不安や悩みを感じていた。また、「自分の目標」「将来に対する不安」に関する項目でも、2020年度入学生は他の入学年度生に比べ、同様に不安傾向が高いことが示された。次に、学年による傾向の有無について検討したところ、学年の上昇とともに悩みが変動する側面と学年に関わらず悩みを持つ者が一定数存在する側面が見られることが示唆された。

キーワード：健康調査／新型コロナウイルス感染症／入学年度／男女差／学年

問題と目的

高等学校や大学の時期は、心理的には青年後期にあたる。この時期は、対人関係の広がりの中で喜怒哀楽さまざまな感情を体験し、心理的に揺れ動く時期、あるいは、アイデンティティ (identity) の模索や挫折の経験を通じて、将来の進路決定や社会人として独立していく準備の時期といえる(畑野, 2019; 向田, 2017; 澤田, 2018)。その一方で、青年期特有の心理的不安定さも抱えており、この時期は精神疾患をはじめとして、うつ傾向、摂食障害、神経症など、さまざまな心理的問題の発生しやすい時期でもある(水澤, 2016)。

また、高等学校から大学への進学は、人生における重要な一つの転機 (transition) でもあり(川嶋, 2006; 溝上, 2018)、これまでとは違う新たな生活環境、学習環境への適応が求められるという点でも、ストレスがかかりやすい時期であるといえる。

このような点を踏まえ、今日、各大学では保健センター(保健室)や学生相談室(カウンセリングルーム)を整備するとともに、入学時に学生に対しスクリーニング調査等を実施し(澤田, 2003)、学生の心身両面での不調を早期に発見し、心身の健康面でのサポートをおこなっている。たとえば、大学生の

学生相談では、進路や修学、対人関係、恋愛関係に関する相談内容が多くを占めることが報告されている(澤田, 2003; 田口・篠田, 2017; 高石, 2009)(注1)。

このような青年期固有の心理特性や大学進学という転機など、通常想定される課題に加え、2020年度の新入生の場合、大学は以下に示す点についても配慮とサポートが必要となっている。

すなわち、2020年度春に大学に入学した新入生は、1990年に始まった現行の大学入試センター試験の最後の受験学年である。彼・彼女らは、2021年度から大学入試が大きく変わること意識しながら、今春の目標大学の合格を目指して受験勉強に取り組まなければならない学年であった。したがって、例年以上に、大学入試センター試験の平均点や予備校等が公表する各大学の合格ボーダーライン、出願倍率などを基に、出願先を検討し、さまざまな条件の下で進路を決定しなければならなかったといえる。

加えて、受験期には新型コロナウイルス感染症の感染者が全国的に増加し(3月11日にはWHOが「パンデミック(世界的大流行)」を表明)、石川県内においても、県立学校は3月2日から順次24日まで臨時休業する状況となった。受験生にとっては、受験が終盤になるにつれ感染拡大が伝えられ、大学によっては個別学力試験の中止も発表される中、どの

*¹ 石川県立大学 生物資源環境学部 教養教育センター

*² 石川県立大学 保健室

*³ 石川県立大学 学生相談室非常勤カウンセラー

時点で進学先を決定するか、地元の大学に進学するか否かについても、例年とは異なる意思決定が求められた年といえる。

さらに、新年度早々の4月7日には、7都府県（東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡）を対象に緊急事態宣言が発令され、13日には石川県においても独自の緊急事態宣言が発令される事態となった。幸い石川県内の大学はじめ県立学校等の多くでは、入学式を挙行することはできたものの、「Stay Home」をスローガンに、新入生（学生・生徒・児童）はキャンパス・校内に立ち入ることもできず、担任やクラスメイトとも馴染めないまま、結果的に5月31日までの休校措置へとなってしまった。この間、県内の大学では、手探りの中、オンライン会議システム（e.g. Zoom や Teams）や学習支援システム（learning management system: LMS）を用いて遠隔授業を実施し、学習支援やメンタルケア等を行ってきたが、大学新入生にとっては、慣れない環境や情報環境の不備の中で自宅学習を余儀なくされることとなった。緊急事態宣言の全面解除（5月25日）を受け、漸く対面授業が部分的ながら段階的に再開され、新入生がキャンパスに足を踏み入れることができるようになったのは、入学式から約2ヶ月後の6月に入ってからであった。

このように、2020年度は大学入試制度の転換期にあたり、大学にとっては例年以上に多様な志望動機で入学してきた学生がいる可能性があることから、初期の段階における大学適応へのサポートが求められる年であった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、新入生オリエンテーション等の行事をはじめ、前期授業の大半がオンラインでの開講となったために、入学当初における教員と学生あるいは学生相互の対面による直接的な交流の機会を設けることができなかつた。そのため、例年以上に個々の学生への連絡や対応が求められるとともに、5月の大型連休明けから始まったオンライン授業を通じて学生相互のコミュニティを形成していかなければならず、学生の居場所作りやメンタルサポートの重要性と難しさが認識された年であったといえる。

本研究では、以上の点を踏まえ、石川県立大学の在学学生を対象として、2016年度から2020年度に実施された「心と体の健康調査」のデータを用いて、入学時点での不安や悩みに、入学年度や男女による違いが見られるのか否か、また不安や悩みに学年による違いが見られるのか否かについて検討することを目的とした。なかでも、上述したように、コロナ禍により、これまで誰も経験したことない特殊な体験をせざるをえなかつた本年度の新入生の特徴を、

学生の意識調査を基に把握することは、今後も続く「WITH コロナ時代」の学生サポートのあり方を検討するうえで重要な示唆が得られるものと考えられる。

方 法

(1) 調査対象と手続き

石川県立大学では、2015年度の試行調査を踏まえ、保健室が中心となって「心と体の健康調査」を実施している（注2）。調査は、生物資源環境学部3学科に在籍する男女全学生を対象に、2016年度から4月初旬に行われる新年度オリエンテーションで調査票を配付し、同期間中の保健室からの説明時に回収している。なお、本調査は大学院生についても実施しているが、本研究においては学部学生のみを対象としている。また、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて、4月での調査は1年生のみの実施となっており、所定の提出用ボックスを設置して回収を行った。

(2) 調査内容

調査票は30項目からなり、調査は記名式でマークシートにより実施している。30項目は、身体的健康の不調面（5項目）、精神的健康の不調面（4項目）、自己・性格に対する悩み（6項目）、対人関係の悩み（3項目）、学業や学生生活に対する適応の悩み（6項目）、生活・家族・将来に対する悩み（5項目）の6側面29項目と、最後に相談の希望の有無についての1項目から構成されている。なお、項目28「信頼できる友達がいる」および項目29「将来に希望を持っている」については逆転項目として設定されている。

調査では、「あなたは今、体も心も元気ですか？心身の健康状態を把握するために、学年のはじめに健康調査を実施します。結果をもとに、保健室とクラス担任の教員で、気持ちよく学年をスタートできるように支援していきたいと考えています。」と教示し、項目1から項目29については、「a. あてはまる」「b. ややあてはまる」「c. どちらでもない」「d. あまりあてはまらない」「e. あてはまらない」の5択で回答を求めた。項目30「誰かに相談したいと思っていますか」については、「a. 相談するほどではない」「b. 友だちに相談したい」「c. 家族に相談したい」「d. 大学（教員、保健室、相談室）に相談したい」「e. 誰かに相談したいが、まだ話そうにない」の中から複数選択可で回答を求めた。

分析に当たり、項目1から29については、「a. あてはまる」を5点、「e. あてはまらない」を1点と換算して得点化した。

結果と考察

年度ごとの回答者数を表1に示す。回答総数はのべ2304名であった。以下では、欠損値などを考慮して、分析ごとに有効回答のみを用いて、データ解析を行った。なお、学年ごとの回答者数には、3年次編入生や留年生も含まれている（注3）。

表1 年度・学年・男女ごとの回答者数

	2016	2017	2018	2019	2020
1年生	137 (66/71)	135 (73/62)	139 (74/65)	129 (58/71)	131 (69/62)
2年生	130 (63/67)	137 (65/72)	134 (73/61)	138 (70/68)	-
3年生	128 (62/66)	148 (76/72)	147 (70/77)	142 (78/64)	-
4年生	123 (53/70)	126 (61/65)	138 (68/70)	142 (65/77)	-

注) 数値は、人数（男性/女性）を示す

(1) 新入生（1年生）の入学年度および男女差

2016年度から2020年度に回収された1年生の

データについて、入学年度および男女ごとに、項目およびカテゴリごとの平均スコアを算出した（表2-1、表2-2）。逆転項目である項目28および項目29を除く各項目および各カテゴリ得点では、点数が高いほど不調や悩みを抱えていることを意味している。そのため、カテゴリ得点（i.e. カテゴリ（e.g. 対人関係）を構成する項目の素点合計を項目数で除した値）を算出する際には、逆転項目である項目28と項目29については、「a. あてはまる」を1点、「e. あてはまらない」を5点と換算して得点化した。

5年間の各カテゴリ得点の平均と標準偏差は、身体的健康が 2.27 ± 0.86 、精神的健康が 2.19 ± 0.86 、自己・性格が 3.09 ± 0.89 、対人関係が 2.57 ± 0.86 、学業・適応が 2.70 ± 0.74 、生活・家族・将来が 2.75 ± 0.75 であった。5年間の全体傾向として、各カテゴリ得点は意味上の中央値である3点よりも低い

表2-1 入学年度ごとの1年生の記述統計値（平均値と標準偏差）

質問項目	性	入学年度				
		2016	2017	2018	2019	2020
身体的健康	男	2.08 (0.94)	2.49 (0.88)	2.25 (0.88)	2.28 (0.84)	2.29 (0.83)
	女	2.22 (0.79)	2.44 (0.86)	2.19 (0.89)	2.35 (0.84)	2.12 (0.89)
1. 体調不良になることが多い	男	2.16 (1.18)	2.49 (1.27)	2.00 (1.15)	2.10 (1.02)	2.07 (1.09)
	女	2.32 (1.33)	2.21 (1.18)	2.08 (1.15)	2.20 (1.10)	1.97 (1.17)
2. 病気・健康のことで気になることがある	男	1.98 (1.26)	2.48 (1.43)	1.96 (1.10)	1.98 (1.15)	1.98 (1.19)
	女	1.72 (0.97)	2.00 (1.30)	1.90 (1.19)	1.96 (1.13)	1.71 (0.99)
3. 貧血・ひきつけをおこしたことがある	男	1.98 (1.48)	2.01 (1.42)	2.22 (1.47)	2.19 (1.48)	2.40 (1.70)
	女	2.06 (1.41)	2.85 (1.62)	2.11 (1.44)	2.08 (1.51)	2.09 (1.51)
5. 胸の辺りがしめつけられるように感じたことがある	男	1.62 (1.08)	2.42 (1.45)	2.27 (1.35)	2.19 (1.44)	2.18 (1.37)
	女	1.94 (1.27)	2.28 (1.47)	2.11 (1.37)	2.31 (1.34)	2.10 (1.41)
9. よく疲れを感じる	男	2.65 (1.33)	3.05 (1.31)	2.81 (1.29)	2.95 (1.26)	2.83 (1.28)
	女	3.04 (1.26)	2.87 (1.18)	2.73 (1.19)	3.18 (1.21)	2.72 (1.40)
精神的健康	男	2.00 (0.84)	2.25 (0.92)	2.25 (0.88)	2.26 (0.76)	2.30 (0.97)
	女	2.07 (0.76)	2.20 (0.87)	2.17 (0.84)	2.34 (0.87)	2.10 (0.86)
4. 緊張して呼吸がしにくくなったことがある	男	1.62 (1.04)	1.66 (1.03)	1.72 (1.13)	1.74 (1.15)	1.73 (1.21)
	女	1.55 (1.00)	1.72 (1.24)	1.67 (1.15)	1.80 (1.12)	1.66 (1.09)
6. 時々、考えごとでなかなか眠れないことがある	男	2.03 (1.36)	2.22 (1.44)	2.45 (1.37)	2.33 (1.42)	2.37 (1.38)
	女	2.13 (1.36)	2.05 (1.23)	2.37 (1.38)	2.54 (1.33)	2.24 (1.37)
8. 元気、やる気、意欲がでない	男	2.05 (1.02)	2.47 (1.20)	2.24 (1.19)	2.36 (1.18)	2.60 (1.20)
	女	2.03 (0.88)	2.41 (1.15)	2.21 (1.06)	2.42 (1.10)	2.29 (1.24)
12. 気持ちの落ち着かないことが多い	男	2.29 (1.16)	2.64 (1.23)	2.59 (1.26)	2.62 (1.23)	2.50 (1.17)
	女	2.59 (1.14)	2.62 (1.17)	2.46 (1.33)	2.61 (1.22)	2.22 (1.16)
自己・性格	男	2.94 (0.90)	3.16 (0.88)	2.90 (0.87)	3.03 (0.87)	3.25 (0.92)
	女	3.05 (0.82)	3.23 (0.78)	2.92 (0.99)	3.32 (0.87)	3.08 (0.95)
7. 自分の言いたいことがうまく伝えられない	男	2.52 (1.19)	2.77 (1.22)	2.36 (1.28)	2.43 (1.23)	2.67 (1.20)
	女	2.46 (1.30)	2.75 (1.18)	2.63 (1.34)	2.94 (1.18)	2.43 (1.19)
10. 自分に自信がもてない	男	2.92 (1.10)	3.14 (1.24)	2.82 (1.30)	2.86 (1.19)	3.30 (1.28)
	女	3.21 (1.18)	3.33 (0.91)	3.03 (1.24)	3.20 (1.08)	3.12 (1.24)
11. 何かにつけて、よく心配するほうである	男	3.44 (1.37)	3.47 (1.26)	3.36 (1.21)	3.52 (1.27)	3.58 (1.27)
	女	3.45 (1.26)	3.70 (1.04)	3.35 (1.33)	3.61 (1.25)	3.34 (1.31)
13. 他人が自分のことをどう思っているのか気になるほうである	男	3.40 (1.37)	3.58 (1.28)	3.46 (1.17)	3.24 (1.22)	3.67 (1.17)
	女	3.49 (1.19)	3.57 (1.12)	3.24 (1.30)	3.80 (1.13)	3.33 (1.25)
22. 自分の目標がよく分からない	男	2.49 (1.37)	2.92 (1.39)	2.55 (1.36)	2.93 (1.34)	3.03 (1.37)
	女	2.68 (1.34)	2.90 (1.34)	2.49 (1.31)	2.96 (1.25)	3.07 (1.47)
23. 自分にはどんな仕事かよく分からない	男	2.84 (1.37)	3.11 (1.34)	2.84 (1.47)	3.19 (1.36)	3.25 (1.41)
	女	3.01 (1.25)	3.15 (1.36)	2.79 (1.38)	3.41 (1.14)	3.17 (1.40)

表 2-2 入学年度ごとの 1 年生の記述統計値 (平均値と標準偏差)

質問項目	性	入学年度				
		2016	2017	2018	2019	2020
対人関係	男	2.54 (0.86)	2.55 (0.90)	2.48 (0.85)	2.52 (0.82)	2.94 (0.83)
	女	2.49 (0.81)	2.33 (0.92)	2.49 (0.88)	2.49 (0.92)	2.95 (0.67)
14. 集団のなかにいると気疲れする	男	2.76 (1.27)	2.96 (1.16)	2.95 (1.23)	2.95 (1.22)	3.13 (1.40)
	女	3.11 (1.24)	3.03 (1.28)	2.97 (1.33)	3.15 (1.17)	2.78 (1.24)
15. 人間関係に悩んでいる	男	2.30 (1.25)	2.27 (1.20)	2.23 (1.21)	2.26 (1.15)	2.20 (1.12)
	女	2.13 (1.04)	2.15 (1.15)	2.08 (1.10)	2.28 (1.19)	1.93 (0.99)
28. 信頼できる友達がいる	男	3.44 (1.28)	3.59 (1.15)	3.73 (1.15)	3.66 (1.05)	2.50 (1.20)
	女	3.76 (1.14)	4.20 (1.00)	3.59 (1.19)	3.96 (1.09)	1.86 (1.05)
学業・適応	男	2.53 (0.78)	2.79 (0.73)	2.66 (0.76)	2.80 (0.71)	2.83 (0.69)
	女	2.64 (0.81)	2.83 (0.64)	2.62 (0.76)	2.73 (0.77)	2.65 (0.73)
16. 欠席しやすいほうである	男	1.46 (0.76)	1.66 (0.99)	1.46 (0.80)	1.72 (0.93)	1.70 (1.00)
	女	1.51 (1.00)	1.56 (1.04)	1.29 (0.63)	1.46 (0.81)	1.52 (0.96)
17. 必要な単位がとれるか不安である	男	3.35 (1.47)	3.51 (1.39)	3.54 (1.35)	3.60 (1.28)	3.80 (1.27)
	女	3.49 (1.31)	3.72 (1.16)	3.59 (1.28)	3.68 (1.28)	3.59 (1.38)
18. とても苦手な教科がある	男	3.46 (1.50)	3.71 (1.30)	3.74 (1.16)	4.02 (1.21)	3.97 (1.06)
	女	3.35 (1.38)	3.92 (0.95)	3.57 (1.32)	3.72 (1.22)	3.71 (1.09)
19. 授業が全くわからないとき、誰に相談すればよいかわからない	男	2.41 (1.30)	2.86 (1.26)	2.51 (1.23)	2.53 (1.25)	2.55 (1.14)
	女	2.68 (1.37)	2.95 (1.27)	2.59 (1.28)	2.75 (1.25)	2.53 (1.30)
20. 試験では、緊張して力を発揮できなくなりそうで心配である	男	2.46 (1.23)	2.84 (1.37)	2.78 (1.31)	2.71 (1.26)	2.73 (1.23)
	女	2.80 (1.28)	2.72 (1.14)	2.86 (1.45)	2.87 (1.26)	2.59 (1.17)
24. 自分に合わない大学に入学してしまった気がして不安である	男	2.05 (1.05)	2.15 (1.15)	1.92 (1.11)	2.19 (1.10)	2.22 (1.14)
	女	2.03 (1.00)	2.10 (1.16)	1.86 (1.08)	1.90 (0.91)	1.97 (0.94)
生活・家族・将来	男	2.63 (0.76)	2.87 (0.78)	2.73 (0.80)	2.85 (0.76)	2.81 (0.64)
	女	2.52 (0.71)	2.81 (0.80)	2.66 (0.83)	2.89 (0.74)	2.68 (0.57)
21. 卒業まで頑張れるか不安である	男	2.40 (1.25)	2.81 (1.31)	2.65 (1.43)	2.79 (1.45)	2.88 (1.37)
	女	2.46 (1.27)	2.84 (1.34)	2.67 (1.39)	2.92 (1.25)	2.53 (1.34)
25. 卒業後、希望の仕事につくことができるか心配である	男	3.14 (1.40)	3.67 (1.21)	3.43 (1.31)	3.64 (0.97)	3.50 (1.20)
	女	3.38 (1.27)	3.72 (1.02)	3.46 (1.33)	3.86 (1.11)	3.62 (1.14)
26. 家族のことで心配なことがある	男	1.97 (1.24)	2.22 (1.28)	2.09 (1.17)	2.29 (1.12)	1.97 (1.18)
	女	1.82 (1.05)	2.11 (1.25)	1.94 (1.12)	2.08 (1.11)	1.71 (0.94)
27. 授業料や生活費のことが心配である	男	3.00 (1.43)	3.07 (1.43)	3.04 (1.45)	2.81 (1.43)	2.62 (1.45)
	女	2.51 (1.42)	2.87 (1.36)	2.71 (1.49)	3.01 (1.33)	2.09 (1.13)
29. 将来に希望をもっている	男	3.37 (0.92)	3.40 (1.02)	3.55 (1.08)	3.29 (0.92)	2.93 (1.31)
	女	3.59 (1.01)	3.48 (0.99)	3.46 (1.12)	3.44 (0.94)	2.55 (1.17)

注) Q28 および Q29 は逆転項目

傾向にあり、最も高かった「自己・性格」でのみ最頻値が 3.7 であった。これらのことから、新入生の悩みや心配としては、自己や性格に関するものが多い傾向にあるものの、全体としては概ね健康な学生が多いと解釈することができる。

入学年度や男女による違いの有無を検討するために、表 2-1 および表 2-2 に示された平均値と標準偏差を用いて、入学年度 (5) × 性 (2) の分散分析をおこなった。その結果を以下に示す。

1) 身体的健康

カテゴリー全体として入学年度の主効果が有意であった ($F(4,656)=3.01, p<.05$)。Tukey 法を用いて多重比較をおこなったところ、2017 年度生は 2016 年度生および 2020 年度生より身体的健康の不調度が高かった。

項目ごとでは、項目 1 ($F(4,656)=2.39, p<.05$)、項目 2 ($F(4,654)=2.80, p<.05$) および項目 5 ($F(4,656)=3.49, p<.01$) で主効果が有意であった。多重比較をおこなったところ、2016 年度生および 2020 年度生よりも 2017 年度生の方が、病気や健康のことで気になることがある (項目 2) と回答しており、2016 年度生よりも 2017 年度生および 2019 年度生の方が、胸の辺りが絞めつけられるように感じた経験を有していた (項目 5)。また、女性よりも男性の方が、病気や健康のことで気になることがある (項目 2) と回答していた ($F(1,654)=5.28, p<.05$)。加えて、項目 3 で要因間の交互作用が有意であった ($F(4,655)=2.66, p<.05$)。年度により、貧血やひきつけを起こしたことがある学生の割合が男女により異なることが示唆された。

2) 精神的健康

カテゴリー全体としては入学年度による違いは見られなかった。項目ごとでは、項目 8 で主効果が有意であり ($F(4,656)=3.04, p<.05$)、2016 年度生より

も 2017 年度生および 2020 年度生の方が、元気ややる気が出ないと感じていた。

3) 自己・性格

カテゴリー全体として入学年度の主効果が有意であったが ($F(4,656)=2.67, p<.05$)、年度間の明確な差は示されなかった。項目ごとでは、項目 22 ($F(4,655)=4.42, p<.01$) および項目 23 ($F(4,655)=3.12, p<.05$) で主効果が有意であった。多重比較をおこなったところ、2016 年度生および 2018 年度生よりも 2020 年度生の方が、自分の目標がよく分からないと感じていた (項目 22)。また、2018 年生よりも 2019 年度生の方が自分にはどんな仕事が良いのか分からないと回答していた (項目 23)。加えて、項目 13 では要因間の交互作用が有意であり ($F(4,654)=2.60, p<.05$)、年度によって他人の目を意識する程度が男女で異なることが示唆された。

4) 対人関係

カテゴリー全体として入学年度の主効果が有意であり ($F(4,656)=7.27, p<.001$)、2020 年度生は他の入学年度生よりも対人関係に悩みや課題を抱えていることが示された。項目ごとに見ると、集団での他者との接し方や人間関係の悩みは 2019 年度以前と異ならないが、2020 年度生では他の入学年度生に比べ、信頼できる友達がいると認識している者が少ないこと (項目 28) が示された ($F(4,654)=46.92, p<.001$)。また、年度により男女でその程度が異なることが示された ($F(4,654)=4.47, p<.001$)。たとえば、2020 年度は全体的に他の年度に比べ少ないが、特に女性で、信頼できる友だちがいると認識できていなかった。

5) 学業・適応

カテゴリー全体としては入学年度による違いは見られなかった。項目ごとでは、2019 年度生では、2016 年度生に比べ、苦手な教科があると認識している者 (項目 18) が多かった ($F(4,655)=3.13, p<.05$)。

6) 生活・家族・将来

カテゴリー全体として入学年度の主効果が有意であり ($F(4,656)=3.63, p<.01$)、2017 年度生および 2019 年度生は、2016 年度生よりも生活・家族・将来に対して悩みを抱えていた。項目ごとに見ると、卒業後の就職を心配する者 (項目 25) が、2016 年度生よりも 2017 年度生および 2019 年度生で多かった ($F(4,655)=3.41, p<.01$)。また、女性よりも男性の方が、家族のことで心配がある (項目 26) と回答していた ($F(1,655)=3.88, p<.05$)。さらに、授業料や生活費の心配 (項目 27) については、2020 年度生は 2017 年度から 2019 年度生に比べて低く ($F(4,655)=3.82, p<.01$)、男性よりも女性の方が低かつ

表 3 入学年度別の潜在的な面談必要者率 (1 年生)

2016	13.9 (19 / 137)
2017	11.1 (15 / 135)
2018	10.8 (15 / 139)
2019	24.8 (32 / 129)
2020	11.9 (15 / 126)
合計	14.4 (96 / 666)

注) 括弧の中は、該当者数/回答者数を示す

た ($F(1,655)=6.10, p<.05$)。その反面、2020 年度生は 2016 年度生を含め他の入学年度生に比べ、将来に対する希望を感じることができていないこと (項目 28) が示された ($F(4,653)=12.57, p<.001$)。

7) 相談の希望の有無

表 3 に、各年度の項目 30 において、重複回答を含め、「d. 大学 (教員、保健室、相談室) に相談したい」と「e. 誰かに相談したいが、まだ話せそうにない」を選択していた者の割合を示す。石川県立大学の保健室で、入学後早期の面談が必要と見なしているこれらのスクリーニング基準に該当する学生の割合 (潜在的な面談必要者率) は、概ね 10% から 14% であった。唯一 2019 年度入学生においてのみ、24.8% の学生が該当しており、特異的に高い傾向が示された。その一方で、2020 年度では、その他の年度に比べても、特に高い傾向は示されなかった。

以上の結果を要約すると、1 年生を対象とした 5 年間の分析結果からは、以下のことが明らかとなった。

- (1) 「身体的健康」、「精神的健康」、「自己・性格」、「学業・適応」、「生活・家族・将来」の各カテゴリー得点は年度による変動も見られたが、コロナ禍での 2020 年度に特異的な違いは見られなかった。
- (2) 「対人関係」のカテゴリー得点は、2020 年度入学生で他年度の入学生よりも高く、「信頼できる友達がいる」と実感できないことが強く影響していた。同様に、2020 年度生は、「自分の目標がよく分からない」と感じている程度が高く、「将来に希望を持てる」と感じる程度が低いことが明らかとなった。
- (3) しかし、授業開始が 2 週間程度遅れるという連絡が周知されていた 4 月初旬の段階においては、早期の面談が必要とみなされる学生の割合は例年と差異はなかった。

(2) 2016 年度～ 2019 年度在学生に見る学年傾向

次に、2016 年度から 2019 年度の全学年の回答者

表4 各カテゴリーの平均スコアが3.0以上で、各構成項目内で「あてはまる」「ややあてはまる」の該当数が過半数の者の割合(%)

	身体的健康					精神的健康					自己・性格				
	2016	2017	2018	2019	平均	2016	2017	2018	2019	平均	2016	2017	2018	2019	平均
1年生	10.9	17.0	11.5	14.0	13.4	5.1	6.7	5.0	10.1	6.7	29.9	34.1	28.1	37.2	32.3
2年生	11.5	11.4	21.8	14.0	14.7	8.5	7.6	14.5	11.8	10.6	33.1	37.1	41.1	36.8	37.0
3年生	15.6	9.4	16.8	17.6	14.9	9.4	7.1	13.1	13.2	10.7	35.9	31.5	39.4	44.1	37.7
4年生	15.4	8.2	6.2	13.2	10.8	12.2	5.2	9.7	11.8	9.7	36.6	27.8	27.4	34.6	31.6
	対人関係					学業・適応					生活・家族・将来				
	2016	2017	2018	2019	平均	2016	2017	2018	2019	平均	2016	2017	2018	2019	平均
1年生	16.1	17.0	13.7	14.7	15.4	12.4	15.6	15.8	17.8	15.4	16.8	30.4	20.1	24.0	22.8
2年生	10.0	5.3	9.7	6.6	7.9	13.1	6.8	9.7	10.3	10.0	17.7	12.9	25.8	15.4	18.0
3年生	15.6	8.7	13.9	14.0	13.0	10.2	6.3	5.1	10.3	8.0	20.3	15.7	17.5	14.0	16.9
4年生	10.6	7.2	7.1	8.8	8.4	2.4	4.1	1.8	2.9	2.8	15.4	14.4	10.6	11.0	12.9

注) 2016年の1年生の場合、回答者137名のうち、身体的健康5項目の平均が3.0以上かつ3項目以上で「あてはまる」「ややあてはまる」を選択した者が15名いる。以上を基に、 $15 / 137 \times 100 = 10.9$ と算出されている。

から、注意が必要な学生の発生可能性について、学年による傾向の有無について検討をおこなった。分析は、以下の手順でおこなった。

まず、各カテゴリー得点が3点以上の者を抽出し、構成する各項目に対して「e. あてはまる」および「d. ややあてはまる」と回答している項目数を算出した。その上で、調査実施年度の各学年の回答者数に占める上記項目数が過半数以上になる者の割合を算出した。たとえば、「身体的健康」であれば、5項目中3項目以上「e. あてはまる」「d. ややあてはまる」と回答している者の割合を算出した。したがって、本割合は、各学年集団において平均よりも各カテゴリーにおいて不調や悩みを認識している者の中でも、特に強く認識している者の割合を示しているとみなすことができる。結果を表4に示す。

本分析においても、5年間にわたる入学生の一一般傾向(表2-1、表2-2)と同様に、「自己・性格」に対する項目に該当すると回答する者が多かった。学年にかかわらず、平均して三人に一人くらいの割合で、自分自身に自信がもてない、周りの目が気になるなど、自己の性格を否定的に捉えたり、悩みをもっていたりすることが読みとれる。「身体的健康」でも、各学年に1割強の割合で不調を訴える学生が存在することが示された。貧血や内臓疾患等、入学以前からなんらかの基礎疾患を抱えている学生が、毎年一定数いることが本調査からも示唆される。「精神的健康」では、入学直後ではやや少ないものの、2年生以上になると1割程度が該当していることが読み取れる。学生は、入学時には、新生活への初期適応が求められるが、2年生以降では新生入生に比べ、学生生活への慣れとともに、学生自身の活動範囲や対人関係が広がることで、心理的葛藤やストレスを高める機会も増加することが影響しているのではないかと推察される。

一方、「学業・適応」および「生活・家族・将来」

の側面では、入学直後が最も高く、高学年ほど低い傾向が読み取れる。これに対し、「対人関係」では、入学直後と3年春で高く、2年春と4年春では低くなっていることが横断的ながら示された。

これらの結果を俯瞰すると、石川県立大学における学生のメンタルヘルスの特徴として、「身体的健康」や「精神的健康」、「自己・性格」の側面では、学年にかかわらず、一定数悩みを抱えている者が存在することが分かる。なかでも、学年にかかわらず、他者からの評価を気にし、自分自身に対する自信(i.e. 自己効力感: self-efficacy)が低い、あるいは、コミュニケーションに苦手意識を持つ学生が多いことがうかがえる。これに対し、「学業・適応」あるいは「生活・家族・将来」の側面では、入学直後には不安を抱えているものの、大学生生活に慣れていくにしたがい、悩みや不安が解消されていくことが読み取れる。一方、「対人関係」の側面では、入学時や専門科目の学習が本格化し、研究室配属が近づく、あるいは、就職活動に向けたインターンシップが始まるなど、進級に伴い、学習環境に変化がある時期に上昇することが読み取れる。

但し、本調査のカテゴリー次元は、厳密には独立したものではなく、それぞれの評価点は相互に関連している可能性が否定できない。しかし、そのような点を考慮した上でも、上述した結果は、心理的健康の諸側面によって、学生支援が必要な時期や求められる対応が異なることを示しており、4年間の学生生活を総合的に把握した上での学生支援の体制整備が求められるといえる。

なお、コロナ渦で入学した2020年度入学生(1年生)についても同様に算出したところ、「身体的健康」では10.3%、「精神的健康」では7.1%、「自己・性格」では37.3%、「対人関係」では25.4%、「学業・適応」では26.2%、「生活・家族・将来」では15.1%であった。これらの結果を2019年度以前の

入学生の割合と比較すると、「身体的健康」、「精神的健康」、「自己・性格」では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響があるにも関わらず、同程度といえる。

これに対し、「対人関係」、「学業・適応」の側面の割合は例年に比べ高く、「生活・家族・将来」の割合は逆に低い傾向が認められた。このうち、「対人関係」の結果は、表 2-2 に示された 5 年間の一般傾向を補足する結果が示されたといえる。すなわち、表 2-2 では、コロナ渦中での 2020 年度入学生は 2019 年度以前の入学生に比べ、対人関係についての悩みや不安が高い傾向にあることが示されたが、加えて、本結果は例年に比べ、悩みや不調を強く認識している者の割合が 2019 年度以前に比べ多いことを示していると解釈することができる。

一方、「学業・適応」や「生活・家族・将来」の側面では、表 2-2 に示された一般傾向においては、例年との違いは認められなかった。これらのことから、「学業・適応」の側面については、全体として悩みを抱えている学生が多いのではなく、該当すると回答している学生は構成する項目の多くに、「当てはまる」や「やや当てはまる」と回答していると推察される。このことは、個人差の大きさや、対面授業、遠隔授業システムを用いた遠隔授業にかかわらず、例年以上に基礎学力に不安を感じ、学習支援を必要とする学生が存在している可能性を意味している。これに対し、「生活・家族・将来」の側面では、特定の数項目のみに該当数が多く、多くの項目に該当する者は逆に少なかった。このことが表 2-2 に示される一般傾向では例年との差異が示されなかったことに反映されたと解釈される。

まとめ

本研究では、石川県立大学の在大学生を対象として、新年度オリエンテーション時に実施された「心と体の健康調査」のデータを用い、入学時点での不安や悩みに、入学年度や男女による違いが見られるのか、また、不安や悩みを有する程度に学年による違いが見られるのか否かについて検討することを目的とした。

その結果、コロナ禍の 2020 年度に入学した学生は、オンライン授業が始まる前段階において、既に対人関係や将来に対して不安を感じていたことが明らかになった。一部では、入試制度の変革期にあたり、基礎学力に不安を感じつつ入学している学生が存在することも示唆された。

また、2016 年度から 2019 年度の在大学生を対象とした分析においても、横断的分析ながら、学年が上がるにつれ不安が解消されていくことが示唆される

側面とそうではない側面があること、カリキュラム段階での節目に不安度が高まる側面があることなどが示唆された。

これらの結果は、毎年新年度早々におこなわれている本調査が、学生の自省による間接評価指標を用いており、かつ、ベンチマークがないという限界を有しつつも、石川県立大生のメンタルヘルスの一般的傾向を明らかにするとともに、一定のスクリーニング効果としての機能が期待できることを示しているといえる。今後は、本研究で明らかとなった点を踏まえた学生サポートのあり方を検討していくことが求められる。また、2020 年度入学生については、オンライン授業や一部で解除された対面授業を経た前期終了時において、本調査で示された入学時の不安や悩みがどのように変化しているのか否かについてもなんらかの方法で明らかにしていく必要がある。

注釈

1. 石川県立大学の保健室が発行する「いのち」（教職員用、2020.3.30）によると、2017年度の相談件数は、保健室が77件、相談室が10件、2018年度が同順に138件と48件、2019年度が130件と71件となっている。このような相談件数の増加に対応するため、2019年度から相談室の非常勤カウンセラーが隔週火曜日（午後4時間）の一人体制から週に一回の二人体制に増強され、専任の養護教諭1名とともに、学生の心身のサポートにあたっている。2019年度の外科的・内科的処置を除く相談による月別利用状況では、6月と1月、3月に20名程度の相談が寄せられていることが報告されている。
2. 本調査は、矢野喜夫石川県立大学名誉教授により2013年度から企画・準備されたものが原型となっている。それらを踏まえ、2015年度に著者の一人である坂上（当時は保健室）と矢野喜夫名誉教授により現在の調査票が作成され、2016年度以降は坂上を中心に、関係部署（e.g. 学生部委員会、ハスメント相談を含む学生相談員）と連携しながら実施されてきたものである。
3. 年度ごとの入学者数は、表1に示されるように、2016年度が137名（男性66名、女性71名）、2017年度が135名（男性73名、女性62名）、2018年度が139名（74名、65名）、2019年度が129名（58名、71名）、2020年度が131名（男性69名、女性62名）であった。これらに、3年次には若干名（0～3名）の編入生が加わり、学年によっては留年生が加わる。表1では回収数を示している。

文献

- 福島朋子. 2017. 青年期の発達:アイデンティティの形成. 向田久美子(編著). 新訂 発達心理学概論. 放送大学教育振興会. 145-158.
- 畑野快. 青年期. 林創(編著). 発達心理学. ミネルヴァ書房. 120-131.
- 川嶋太津夫. 2006. 初年次教育の意味と意義. 濱名篤・川嶋太津夫(編著). 初年次教育:歴史・理論・実践と世界の動向. 丸善株式会社. 1-12.
- 溝上慎一. 2018. 高大接続の本質:「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題. 学事出版.
- 水澤慶緒里. 2016. 精神疾患とジェンダー・バイアス:摂食障害はなぜ女性に多いのか. 青野篤子(編著). アクティブラーニングで学ぶジェンダー. ミネルヴァ書房. 71-83.
- 澤田忠幸. 2018. 泣くことの心理学:青年期の情動的泣きを中心に. 石川教育展望. 70:26-33.
- 澤田忠幸. 2003. 本学[愛媛県立医療技術短期大学]看護学科学生の悩みと精神的健康に関する調査. 愛媛県立医療技術短期大学紀要. 16:23-31.

- 田口多恵・篠田直子. 2017. 信州大学学生相談センターにおける学生相談の特徴:平成27年度を中心に. 信州大学総合人間科学研究. 11:107-119.
- 高石恭子. 2009. 現代学生の心の育ちと高等教育に求められるこれからの学生支援. 京都大学高等教育研究. 15:79-88.

謝辞

まずは「心と体の健康調査」の基盤を築かれた矢野喜夫名誉教授(教育心理学研究室)に謝意と敬意を表したい。また、本調査の実施結果の概要は、毎年、保健室より学生部委員会において報告され、学内でも情報共有が図られている。歴代の学生部長ならびに委員の先生方、学生支援にご尽力いただいている各学科のクラスアドバイザー(クラス担任)の先生方、学生相談員の先生方に改めて感謝申し上げます。

Mental Health of Students through a Student Health Survey :As a Material for Student Support in COVID-19 Coronavirus Peril

Sawada, Tadayuki; Shinmura, Tomoko (Liberal Arts Education Center, Ishikawa Prefectural University)
Takahashi, Chiaki (Infirmary, Ishikawa Prefectural University)
Sakagami, Chigusa (Counseling room, Ishikawa Prefectural University)

Abstract

This study analyzed the cumulative data of the annual "mental and physical health survey" conducted for undergraduate students of Ishikawa Prefectural University from 2016 to 2020. First, we examined whether there was a difference depending on the year of admission, using only the first-year students' data. As a result, although there were some fluctuations in terms of physical and mental health disorders, personal and personal worries, and lifestyle, family, and future worries, no differences were observed among these groups. On the other hand, in terms of interpersonal relationships, the result showed that first-year students in 2020, whose classes started late in the spring semester due to the spread of new coronavirus infection, were more worried than first-year students in the previous years. In addition, the scores related to "their goals" and "anxiety about the future" were higher for 2020 freshmen than freshmen in the other years. Next, we examined whether there is a tendency depending on what year of university they are in. The result shows that the degree of worries decreases as they stay as students longer and that there are a certain number of people who have concerns regardless of this factor. These results were discussed from the perspective of future student support and the screening function of this survey.

Keywords: health survey / new coronavirus infection / year of admission / gender / year of university